2018年8月25日

老子会会報

老子会　主催
第010号

老子会のモットー

「老子の道の精神を生かし、自分を変え、世界を変え、未来を変え、世界平和を構築し、人類の幸福を推進していく」ことをモットーとする。

第５３回老子会から

今回の老子会は2018年8月25日（土）15:00～17:00大阪国際交流センターで実施しました。
『老子』第７０章を胡金定教授による講義を行いました。

原文

吾言甚易知，甚易行。天下莫能知，莫能行。言有宗，事有君，夫唯无知，是以不我知。知我者希，則我者貴。是以圣人被褐而怀玉。

注釈

・「吾」　老子の自称。・「言」「事」　わたしが言うこと。わたしが行なうこと。・「宗」　大本（おおもと）のこと、つまり無為自然の思想を指す。・「君」　要点の意。・「褐」　麻の粗末な着物。・「我れは貴し」　老子には、聖人は人民とは隔絶した存在であるとする思想がある。自分を知る者が少ないから貴いというのも、そうした思想の現われである。・「褐を被て玉を懐く」　己れの真価を内に秘めて、軽々しくは外にひけらかさぬこと。名句である。**「ぼろを着てても心は錦」**である。それゆえに貴重なものほど一般には分かりにくいと言う意味。

書き下ろし

わが言は甚(はなは)だ知り易く、甚だ行ない易きも、天下能(よ)く知るもの莫(な)く、能く行なうもの莫し。言に宗(そう)有り、事(こと)に君あり。それ唯だ知ること無し、ここを以(も)って我れを知らず。我れを知る者は希(まれ)なるは、則(すなわ)ち我れ貴(たっと)し。ここを以って聖人は、褐(かつ)を被(き)て玉(ぎょく)を懐(いだ)く。

現代語訳

私の言っている事は本当にとても解り易く、誰にでも簡単に出来る事なのだ。しかし世の人々はそれを理解できず、また行う事も出来ない。私の言葉や行いには要点があるのだが、人々はそれに気づかないでいる。だから私の言う事が理解できないのだ。だが私の言葉を人々が理解できないという事は、それだけ私という存在が貴重という事でもある。このように「道」を知った聖人は、粗末な衣服を着ていながらも心の内には大切な宝を抱いている。その貴さは上辺からは理解できないのだ。

日本語の中の四字熟語

被褐懐玉（ひかつかいぎょく）出典『老子』七〇章。うわべは粗末だが、内にはすぐれた徳を備えているたとえ。すぐれた才能を表に現さず、包み隠しているたとえ。うわべは粗末な服を着ていながら、ふところに玉を隠している意からである。「被」はまとう、「褐」は粗末な衣服の意。「懐」はふところにする意。「褐を被り玉を懐く」と訓読する。すぐれた才能を持っているが、表面には出さないこと。「褐」はぼろぼろの服のことで、外見は粗末な服だが、懐には宝玉を隠し持っているという意味。（胡金定）

日本語にある老子の言葉を学ぶ

日本語の中の熟語

襤褸を着てても心は錦【ぼろをきててもこころはにしき】とは、着ているものは襤褸（ぼろ）でも、心の中は錦を着ているように気高いこと。見た目はみすぼらしく冴えなくても、心は豊かであるということ。人を外見だけで判断してはいけないということにも繋がる。
綴(つづ)れを着ても心は錦。被褐懐玉（ひかつかいぎょく）。

米国にはこのような言葉はない？

米国の「できる人」は、日本人が抱くイメージとこんなに違う！――。在米29年の日本人女性起業家、岩瀬昌美氏が自らの経験から、米国企業の意外な「現場」を紹介した新書『できるアメリカ人　11の「仕事の習慣」』（日本経済新聞出版社日経プレミアシリーズ）。この著書の中から、「できそうに見える」ことに殊更こだわる米国ビジネスパーソンの「実態」を取り上げた第3章「できる人は見た目が10割」を必見。ここでは「“できそうに見える”ことの重要性」について、ご紹介させていただきます。

「できそうに見える」ことが重要

アメリカのビジネスでは「相手からどう見られるか」が、実際に仕事ができるのと同じぐらい、いや、それ以上に重要なのである。これも能力と言っていいだろう。
初対面の人に自分の実力を知ってもらうのは難しいですよね。もし私がこんな自己紹介をしたとしたら、どう感じますか？
「初めまして、岩瀬と申します。私は大学院を出て、アメリカでは誰もが憧れるブルーチップ（優良企業）のAT＆T本社で働いていました。もちろんMBAをもってます……」
そんな調子で延々としゃべり続けたら、「勘違い人間？」と思われて終わりです。私だって、間違いなくそう感じると思います。実力を印象づけるどころか、嫌な印象を与えるばかりです。
だから、言葉で説明するのではなく、まずは外見で伝えるのです。できるアメリカ人は例外なく、ルックスに気をつけています。できる人の外見を大事にしなければなりません。

第一印象には二度目がない

起業までの10年間、私はアメリカ企業に勤めていましたが、そこで思い知ったことがあります。マルチカルチュラルの世界では「見た目による印象」が、日本とは比べものにならないほど大きいということです。
アメリカの社会は、人種も民族も文化も言語も宗教も違う人々が、さまざまな国から移住して成立しました。あまりに多種多様な人がいるため、日本のように微妙な部分まで阿吽（あうん）の呼吸で伝わることがありません。もっとわかりやすく伝える必要があるのです。「以心伝心」では通じません。
だから、外見が重要になってくるのです。自分がどういう人間か、一瞬で理解してもらうために。

第一印象の重要性は、日本の比ではない

第一印象には二度目がない。ビジネスが成功するも失敗するも、いちばん最初の印象次第です。一度しかないチャンスを絶対に逃してはいけません。
日本でも第一印象は重要でしょうが、同質性の高い国内ビジネスでは、外見オンリーで判断されませんよね。雑談のなかでどこの大学を出たか、どの会社で働いたかという話題でも出れば、先方は徐々に印象を軌道修正してくれます。
しかし、マルチカルチュラルの世界では、そこまで微妙な差異を共有できません。会社名や大学名を聞いたって、それがどの程度の評価を受けている会社・大学なのか、よその国の人は知らないのですから。それゆえ、いちばん最初の印象で手っ取り早く理解してしまう。第一印象の重要性は、日本の比ではないのです。

米国に「ボロを着てても、心は錦」はない

日本では「ボロを着てても、心は錦」なんて言われますが、それに相当する言葉はアメリカにありません。日本の場合、ボロを着ている自分を誇る気分すらあるのではないでしょうか。もう正反対です。
また日本では、「汚いけどおいしいラーメン屋さん」が話題になったりしますよね。店が汚いほうが、かえって客の期待感が高まることすらある。これもアメリカではありえません。「汚い店はまずい」がアメリカでは常識なのです。

アメリカではレストランの入り口にAとかBとかいう評価が掲げられています。ほとんどアポイントなしで保健所が衛生検査に来て、点数をつけるのです。Aが最高で、Cが最低。CどころかBの評価でも、アメリカ人は入るのを嫌がります。どんなにおいしかろうが、まずは見た目が重要なのです。

言わぬが花

「言わぬが花」とは、物事は露骨に言ってしまっては興醒めするものであり、黙っているほうがかえって趣があったり、値打ちがあるものだというたとえである。
言ってしまえばそれまでだが、言わないところに味が出るという意味である。
また、口に出さないほうがかえってよいこともあり、余計なことは言わないほうが差し障りがないということである。
類似表現：言わぬは言うにまさる／沈黙は金／雄弁は銀

謙虚についての表現

大賢は愚かなるが如し(非常に賢い人は、知識をひけらかすようなことはしないから、一見したところでは愚かな人のように見えるということ)
能ある鷹は爪を隠す／大智は愚の如し／大巧は拙なるが若し／食い付く犬は吠え付かぬ／上手の鷹が爪隠す／大賢は愚に近し／大巧は巧術なし／大才は愚の如し／大知は知ならず／鳴かない猫は鼠捕る／鼠捕る猫は爪隠す／能ある猫は爪隠す／深い川は静かに流れる／猟する鷹は爪隠す

「謙虚」の対義語

空き樽は音が高い
浅瀬に仇波
鳴く猫は鼠を捕らぬ
能無し犬の高吠え
能無し犬は昼吠える
能無しの口叩き
光るほど鳴らぬ
吠える犬は噛みつかぬ
痩せ犬は吠える

「ボロは着てても、心は錦」

『ボロを着てても、心は錦』の由来　＝　「褐を被て玉を懐く」？
この言葉の由来だが、調べてみると、はやり老子の「被褐而懐玉(褐を被て玉を懐く)」 から来ているようである。「而」を省略して、 「被褐懐玉（ひかつかいぎょく）」になったのである。
簡単に言えば、粗末なものを着て内面の心を厚くしなさいという教えである。または、着ているものはボロでも心の中は錦を着ているように気高くありなさいということである。

いっぽんどっこの唄

歌手：水前寺清子　　作詞：星野哲郎
作曲：安藤実親

ぼろは着てても　こころの錦
どんな花よりきれいだぜ
若いときゃ　二度とない
どんとやれ　男なら
人のやれない　ことをやれ

何はなくても根性だけは
俺の自慢のひとつだぜ
春が来りゃ　夢の木に
花が咲く　男なら
行くぜこの道　どこまでも

老子会の『人』古江富美子さん

古江さんは　中国福建省出身、厦門で生まれ学生時代まで中国で生活されました。その間、学校では中国語（普通語と閩南話）を学び、文化大革命も経験されました。

やがて「日中平和友好条約」が結ばれ、日中国交正常化が実現したことを機に家族と共に日本へ帰国しました。

「中国での生活が長く、中国語も日本語も中途半端だった。」とのことですが、謙虚で努力家の古江さん、「いろんな方々に助けられ今の自分が有ります。」と、猛勉強の末現在に至っています。

日本に帰国してからは、一年間、家庭教師について日本語の発音等を勉強。後に、視覚障碍者、漸新世障碍者、ガイドヘルパー、ホームヘルパーなど福祉施設に関わり、「介護福祉士」の免許も取得されました。後に、小中学校の養護学級の補助教員となります。しかし「中国語をもっと生かした仕事がしたい。」との思いから転職。行政の「国際課通訳ボランティア」をしながら言語を練習し、「日本語教師養成講座」にも通います。現在は、「公的機関の通訳・翻訳」「司法通訳」「自立指導員」「自立支援通訳」「自立支援日本語指導員」として充実した日々を送っておられます。

気を使う仕事も多いようですが、「休みの日はアロマセラピーと共に良い音楽を聴いてストレスを軽減しています。」とのことで、趣味の海外旅行では、「一緒に写真を！」と声掛けされるのを楽しんでおられます。

「人生は常に学習」と生涯学習を標榜し、老子会とも勉強好きがきっかけで出会いました。沢山の方と出会い、沢山の方の話を聞く。そこから「人生を豊かにできる。」と感謝の心がいっぱいの女性です。

＜老子会の皆さんへ＞

私は特別なことができるわけでは有りませんし、歴史の知識もありませんが「老子会」に参加し、すこしずつ「自分の考えで歩んできた人生」を振り返っています。月一回の勉強会ですが、先生のパワー、豊富な知識と経験に感無量です。みなさま、今後ともご指導ご鞭撻のほで宜しくお願い致します。

（古江富美子）

7月度「老子会」のご報告

老子会の皆様には、いつもご協力頂き誠にありがとうございます。7月の老子会は、大阪産業創造館で行いました。36名出席の中、「老子漫二話」をフリートークしました。休憩後、胡金定先生は「戦争は庶民から見れば悪であり、受けるのは被害ばかりで利益は一つもない。老子は、戦争こそ最大の作為であり最大の不自然と説いた。

老子はいつも庶民の側にいた」との講義がありました。交流会は台風１号の心配もある中、13名の方が「とらの穴」で行い大いに盛り上がりました。

9月は「第一回老子会総会」を開催いたします。会員の皆様にはお繰り合わせの上ご出席くださいますようお願い申し上げます。

【今後の日程】

9月29日（土）午後17時～20時　第1回老子会総会「道頓堀ホテル」

※9月は定例の勉強会は有りません。

（石井政　事務局長）

老子会

〒658-8502
神戸市東灘区岡本8-9-1
甲南大学　国際言語文化センター　胡金定研究室

電話: 078(435)2353
FAX: 078(435)2545
E-mail kokintei@center.konan-u.ac.jp